

『光雲流水 光陰』

菱の実会員になってやっと1年になろうとしている 太田市 岩田 尚之  
(01-03-15)

山路を登りながら、かう考えた。  
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。(オイこれ盗作ダヨ)

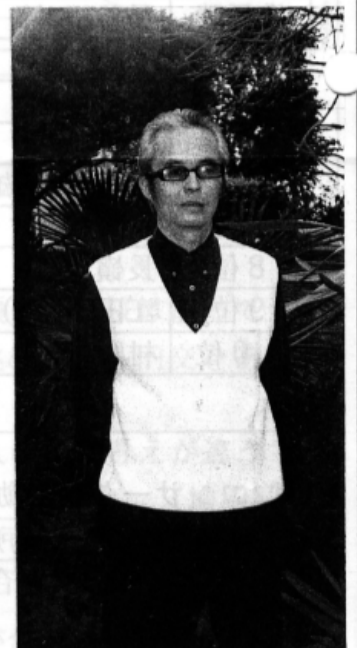
三月のある日、越生の梅林へ行った。  
ここ古梅が多い。なかに保存木として木名を記したのがあり白い花を咲かせているのに[紅梅]とある。これ[こうばい]ではなく[べにうめ]とかながふってある。

近くで梅の小木や盆栽を商っている古老に問うてみた。  
「よく聞かれることがあります。実梅なんじゃよ、そう、実が紅くなるから紅梅」

「ここにある木も本当は紅梅じゃが、面倒なんで[野梅・やうめ]としているんじゃ」

白い花の梅が白梅、紅い花の梅が紅梅と思い込んでいた目には鱗がついていた。

梅ついでに、「珍しい梅があってネ、青梅のゴルフ場に一本の木  
木の左半分が白梅で右半分が紅梅(ここでは花の色)を見たことがあるヨ」  
これへの返事、私の期待は「ホウ、珍しいネ」



ところが「ウン、そう言う梅ドッカで聞いたことある」話しは続かない。話し上手は聞き上手なり。正直か見栄か。嘘も方便、見栄を張らぬ人・自慢をせぬ人の方が話し上手。

三月の別のある日、夫婦で参加の「\*\*体験講座」でのこと。  
あるコマで講師は、遠く博多から招いたという若き“ヨカおごじよ”の保健婦さん。

「血圧が正常な方お手を…」2~3人の中の一寸得意げな馬鹿顔がレジメを持って前へ呼び出される。「ここで血圧を測らしてください」「岩田さんは普段どのくらいですか？」

「上が120位、下が85位です」の短い会話をして、“ヨカおごじよ”こちらに背を向けて血圧計の準備をゆっくりユックリ終わす。少しイライラ。

「レジメに書いて頂いた“奥さんの長所5つ”皆さんの前で発表して、1分間お話ししてください」「マ 待ってくださいヨ、レジメには“発表はありませんので正直に記入”って書いてあるじゃないですか!」「ア あれ作戦だったんです」

はかたおごじよには 是かられた。四十数名を前にとんだ羽目になった。短所ならいくつでも などと気の利かぬ 訳のわからぬことを言って終わろうとしたら

「まだ1分経っていません」と追い討ちまでかけてくる。この人本当は上州の女?

「女房の長所などシャイな私では口にできない。一つのものでも光の当て方で 日向にも日陰にもなる。敢えて日向から見てみた」席に戻ってからこうとでも言えば格好がついたかと思ったがあとの祭り。血圧の測定結果は、上186 下149。“ヨカおごじよ”の完璧な 一時高血圧症作戦にまんまとはめられた。

まあ良いとしておこう。ひとさまが嫌であろうことの変な身代わりになってあげたのだから、何かご利益を神様はお忘れにならぬであろう。

“生病老死”はひとが避けることのできないことだそうである。

このごろ小ボケを時々感ずることがある。

[3つのことが同時にできない] [同じ話しを何回もする] [相手のいうことをきかない] 中ボケ [日付がわからない] [身だしなみをかまわない] [お金のしまい場所を忘れる] e t c, から 大ボケ […………] になりたくない願っているが覚束ない。

小ボケのときに、右脳を働かせる・五官を使う・感動する、明るい色の服を着る、プラス思考・yesで考える、てなこと心がけているとよいとか聞いたことがあって恥ずかしながらの 閑話二題。

「おまえさん、そんなことはわかっているヨ」

「おまえさん、それはちがうヨ」

ではなくて、曇行くが如く水流れるが如く。要は“お人よしの薦め”か？

でも、でも、修行の足りぬ身、何時もいつもそんなふうに見して行ける筈もなかろう。少しでもそう出来たらと…………。そして一人でも多くのひとと…………。

人の世を作ったのは神でもなければ鬼でもない。矢張り向う三軒兩隣りにちらちらする唯の人である。唯の人が作った人の世が住みにくいからとて越す國はあるまい。あれば人でなしの國へ行く許りだ。人でなしの國は人の世よりも猶住みにくからう。 (漱石さんゴメン) (おわり)